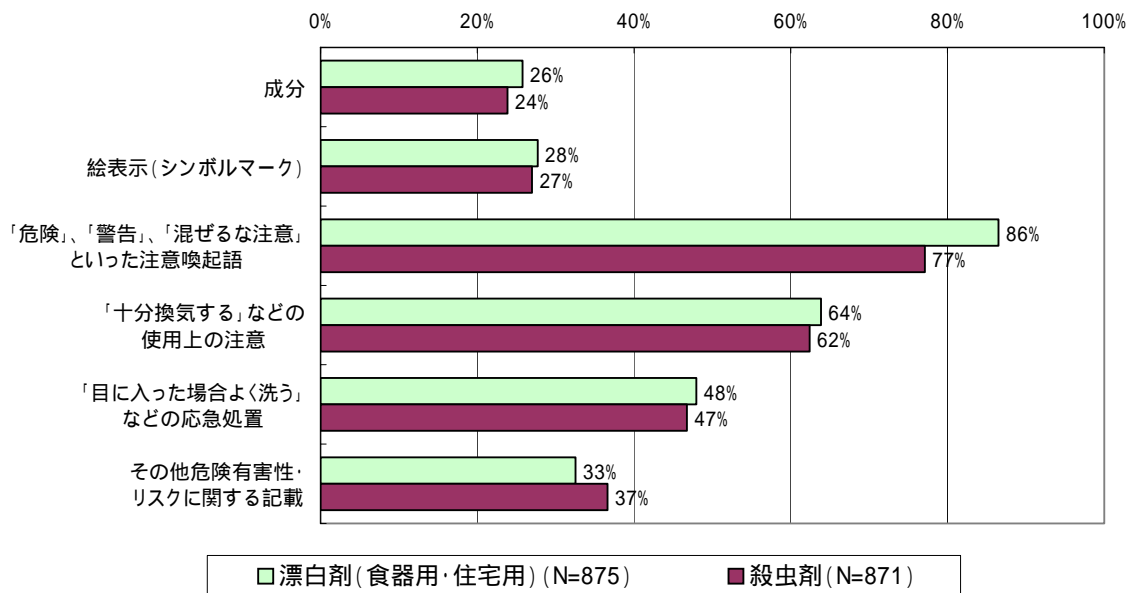
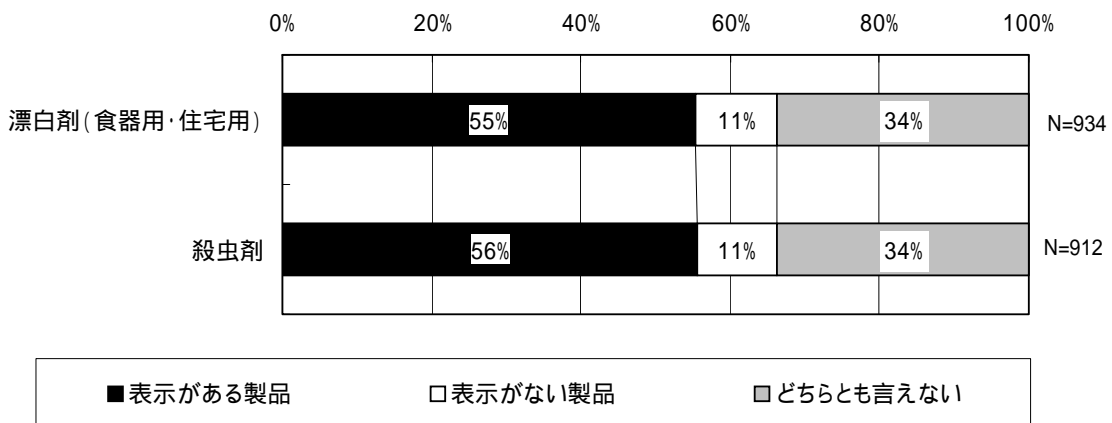


(15) 消費生活用品を使用する際、危険有害性に関する表示のどの部分を読みますか。



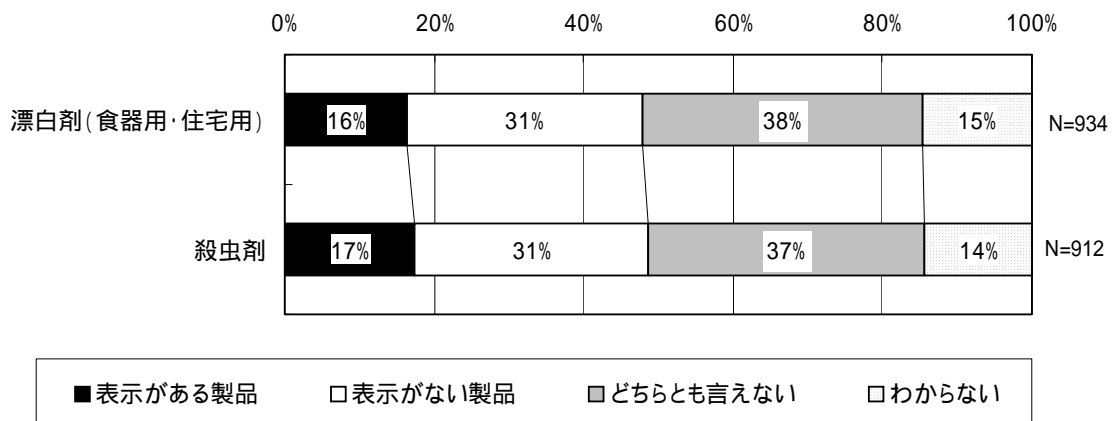
使用時に表示のどの部分を読むかについては、購入時とほぼ同様の傾向が見られます。

(16) 同じ用途で、危険有害性に関する表示がある製品とない製品とがあった場合、どちらを買いますか。



両製品とも同様の傾向が見られており、55~56%が「表示のある製品」、11%が「表示のない製品」を購入すると回答しています。

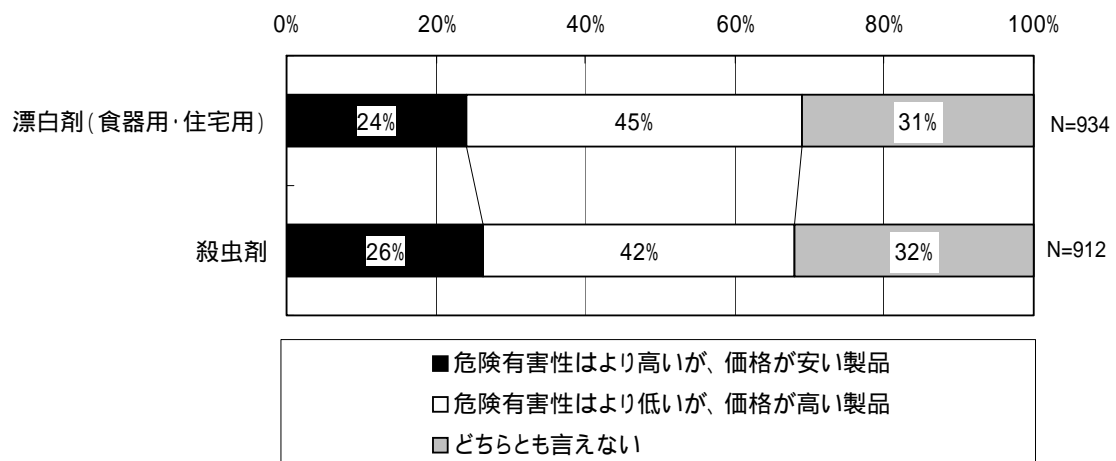
(17) 表示のある製品とない製品を比較した場合、どちらがより危険有害性の高い物質を含んでいると思いますか。



表示がある製品の方が危険有害性が高いと判断する人は、漂白剤、殺虫剤ともに2割未満であり、どちらとも判断できないという回答が最も多いです。「どちらとも言えない」および「わからない」という回答を合わせると、いずれの製品についても5割を超えています。

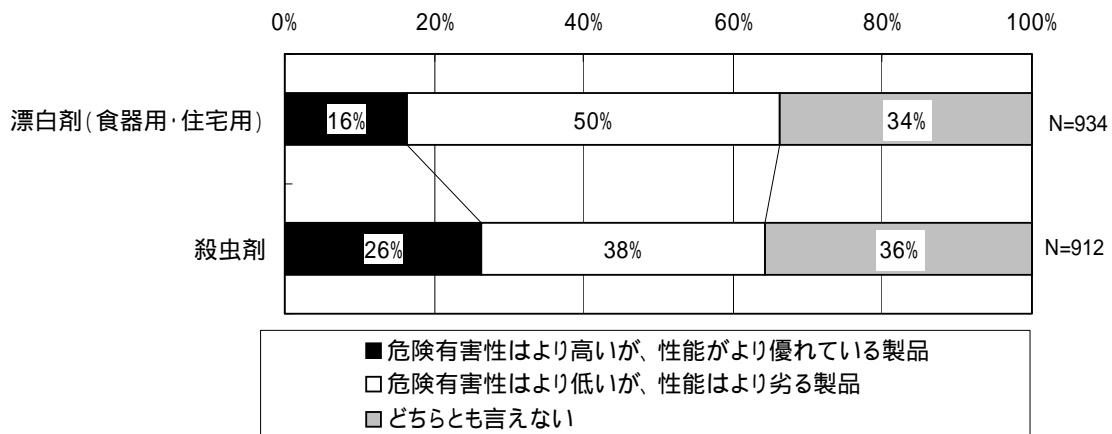
(18) 同じ用途で、危険有害性に関する表示内容が異なる製品があった場合、どちらの製品を購入しますか。

#### 性能が同じ場合



性能が同じ場合は、「危険有害性はより低いが、価格が高い製品」を購入するという回答が最も多く(4割以上)製品選択において、価格よりも危険有害性がより重視されている傾向が見られます。また、漂白剤と殺虫剤の2製品において、特に異なる傾向は見られません。

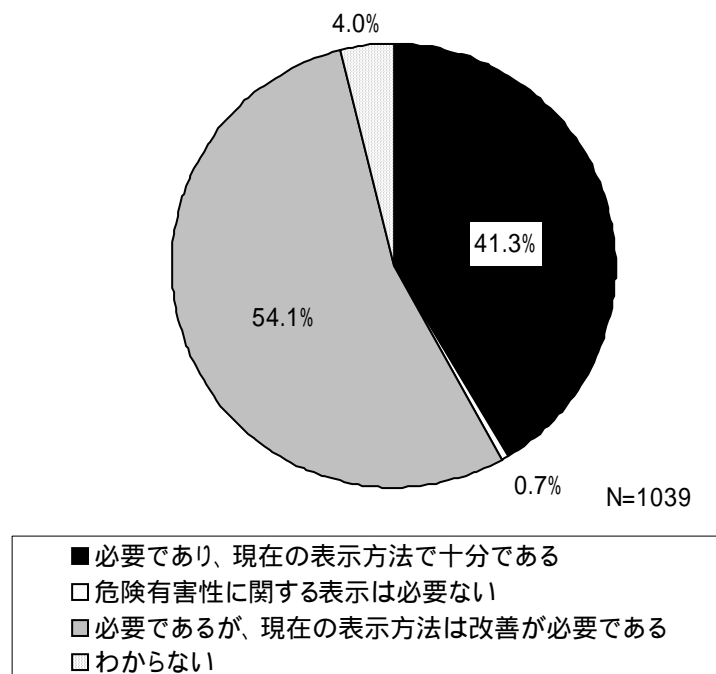
## 価格が同じ場合



価格が同じ場合は、「危険有害性はより低いが、性能は劣る製品」を購入するという回答が、いずれの製品においても最も多く、価格が同じ場合は、性能よりも危険有害性が重視されていると言えます。

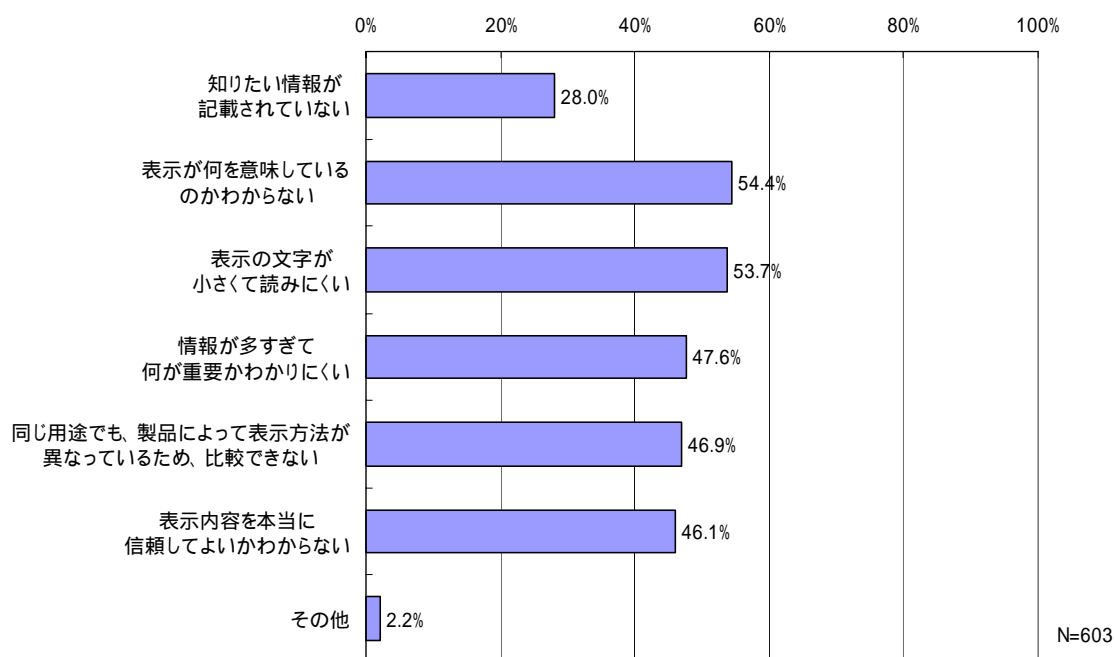
また、殺虫剤に比べ、漂白剤ではよりその傾向が強く、5割の人が危険有害性が低い方を購入すると回答しており、漂白剤の方が殺虫剤に比べ、肌や食器等に触れる確率がより高いため、その製品の危険有害性に対して、消費者がより敏感である可能性が考えられます。

### (19) 消費生活用品には、危険有害性に関する表示は必要だと思いますか。



危険有害性に関する表示の必要性については、過半数が「必要であるが現在の表示方法は改善が必要である」と回答しています。また、「必要ない」という回答は、0.7%に留まっています。

(20) 現在の表示方法はどのような点が問題だと思われますか。



現在の危険有害性に関する表示方法の問題点としては、「何を意味しているのかわからない」および「文字が小さくて読みにくい」という項目を半数以上の人を選択しています。

また、その他、「情報が多すぎて何が重要かわからない」、「同じ用途でも製品によって表示方法が異なっているため、比較できない」、「表示内容を信頼してよいか分からない」という点についても、4割以上の人々が問題であると考えています。

## GHS対応表示について

GHSとは...

Globally harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals の略語。

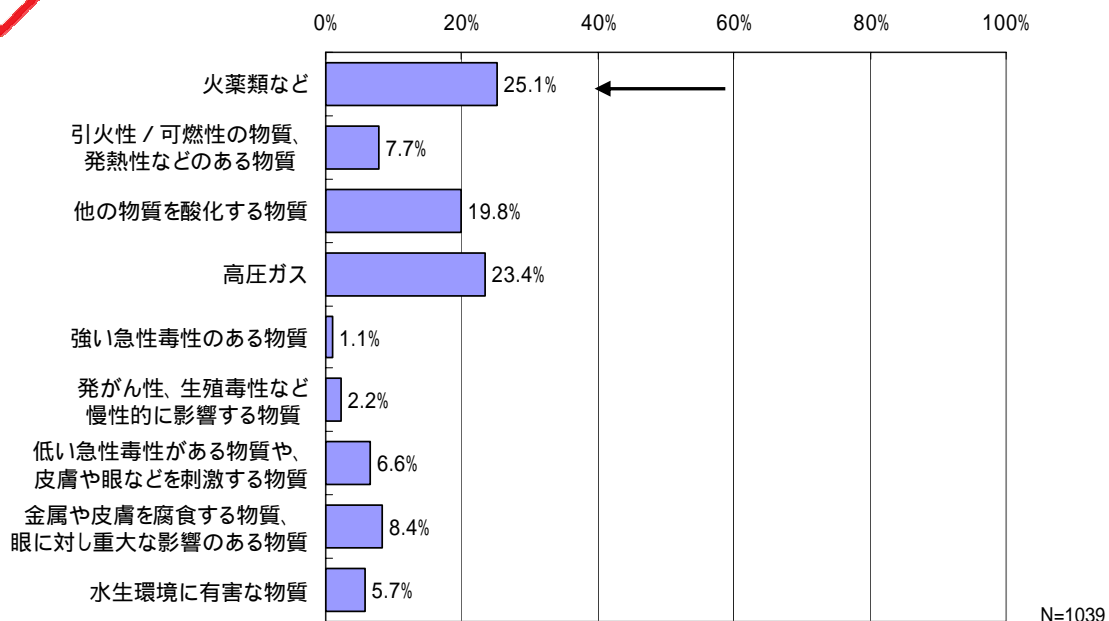
世界的に統一されたルールに従って、化学品を危険有害性の種類と程度により分類し、その情報が一目でわかるよう、ラベルで表示したり、安全データシートを提供したりするシステムです。2003年に国連の勧告があり、今後世界的に導入が進むと見られています。

GHSでは、製品に含まれている化学品の危険有害性の種類とその程度に応じて、製品の容器等に次のようなシンボルマークがつけられます。

(21) 以下のシンボルマークはそれぞれどのような危険有害性を示していると思いますか。



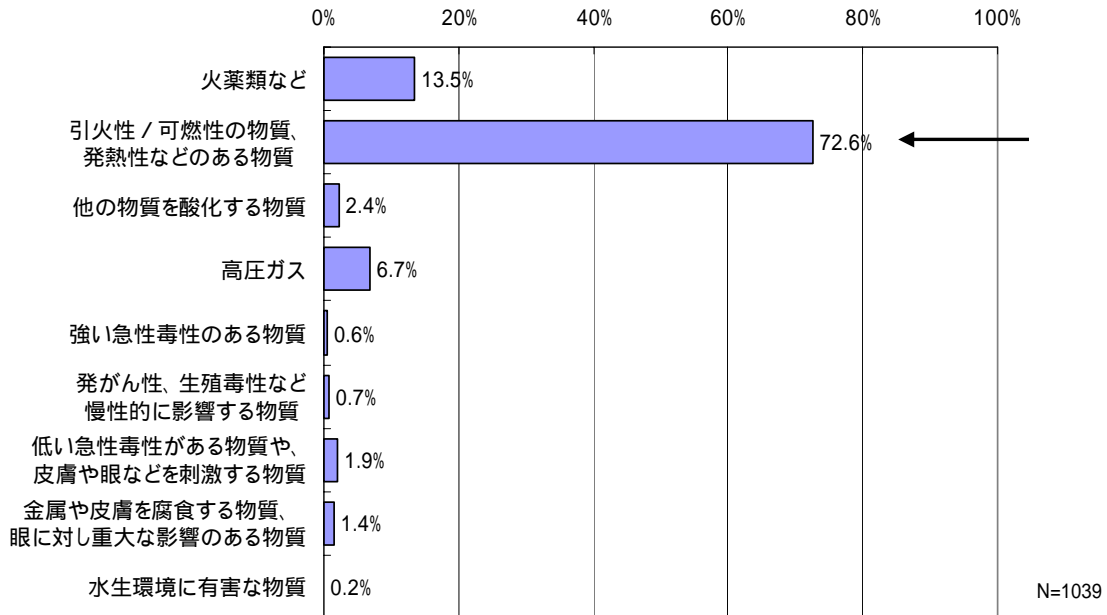
(火薬類)



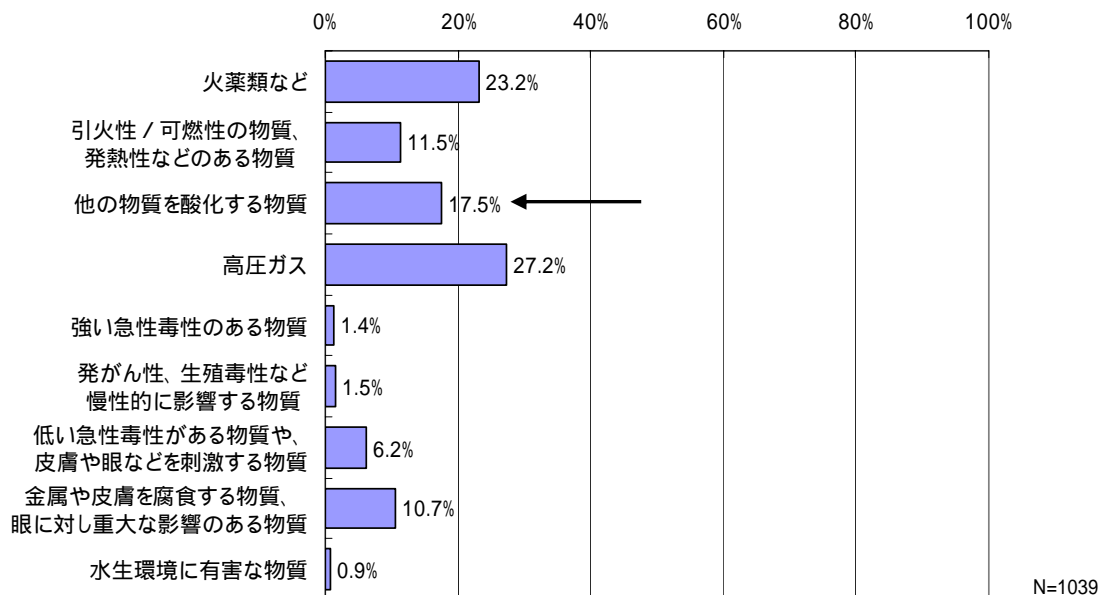
← は、正解を示す。



### (引火性)

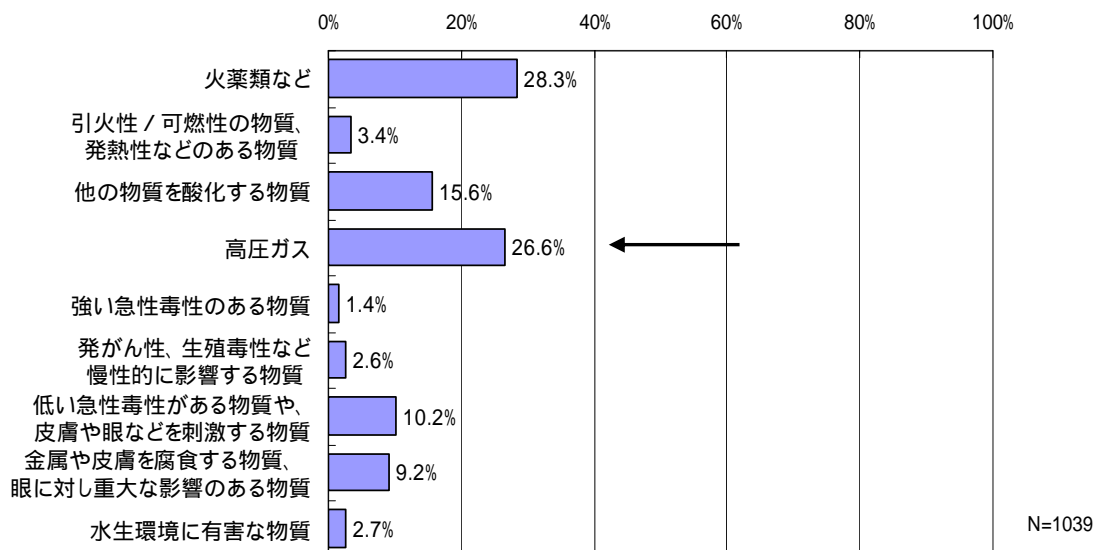


### (酸化性ガス類)





(高圧ガス)



(強い急性毒性)

